そこで冬花壇から春花壇への植え替え時期を５月上旬にすることを目指し、一般にパンジーよりも徒長しにくく観賞期間が長いといわれるビオラを中心に品種を収集し、調査した。その結果、ビオラにおける品種間差異が大きく、５月上旬には草丈が伸びて倒伏がみられるとともに花色が薄くなり、観賞価値がかなり低下する品種がみられ、品種の選択が重要であることが分った。しかも同じシリーズ間であってもその品種間差異は大きい。本調査の結果から、総合的にみれば、‘ソルベ・イエローフロスト’、‘ソルベ・ブルーヘブン’が好成績であったといえよう。

また、今回ビオラと同じ条件で栽培したパンジーに‘パティオラ’シリーズを用いたが、本品種は従来のパンジーよりも徒長しにくいといわれており、実際今回使用したビオラと比較して品質が劣ることはなかった。すなわち、冬の間に花数が少ないという点を除き、観賞価値がかなり高いように思われた。

なお、ここでは調査結果を示さなかったが、正面大花壇にはパンジー‘ナチュレ’シリーズを植えた。本品種はミニパンジーであり、春の徒長が少ないとされるビオラの特性を持ち備えているといわれている。実際、春の徒長はみられなかったが、ローズにおいて低温期に花弁のくすみが生じて４月中旬まで観賞価値が低かったように思われる。全体的にみると、花色では青と黄色が無難ではないかと感じられた。

今後はパンジー‘パティオラ’シリーズとも合わせてパンジーの品種間差異を調査する必要がある。

ΨΨΨ